

2008 年度

科目名 地域文化論（総合講座）B	対象学科・学年 文学部全学科3回生 人間人社3回生	担当者 吉原 忠雄
授業テーマ 河内地方における仏像の諸問題（その3）		
授業の概要と目標 古代の河内は南北に長く、都のあった大和・山城に接した重要な国であった。しかし、鎌倉時代には一地方の地位に甘んじなければならなかった。再び河内が日本史上注目されるのは、南北朝時代の騒乱においてであった。観心寺・金剛寺に南朝あるいは両朝の行在所がおかれ、その関係の仏像も残っている。また、南河内の三太子（叡福寺・野中寺・大聖將軍寺）を中心に聖徳太子信仰が隆盛になった。これらに関係した仏像をとりあげ、様々な問題を考えていく。		
評価方法 出席点 20%とレポート点 80%		
テキスト	著者	出版社
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 (1) 昨年度の概要(1) (2) 昨年度の概要(2) (3) 昨年度の概要(3) (4) 鎌倉時代の仏像 (5) 聖徳太子信仰の仏像 (6) 南北朝時代の仏像(1) (7) 南北朝時代の仏像(2) (8) まとめ		